

読売新聞 きょう（7月21日）のイチ押し

社会面 歩道橋の悲劇忘れない 明石事故20年

兵庫県明石市で花火大会を訪れた11人が亡くなった明石歩道橋事故から21日で20年になります。主催した明石市と明石署、警備会社のずさんな警備実態が後に判明し、明石署元副所長が法改正によって制度が創設された「強制起訴」の第1号となったことでも注目を集めました。

- ★ 事故は2001年7月21日午後8時45分頃に発生。花火大会会場へ向かう人と帰る人が歩道橋に集中し、人が折り重なって倒れて0～9歳の子供9人と高齢者2人が死亡、183人が重軽傷を負いました。
- ★ 遺族らは遺族会を結成して真相究明を続けました。一連の裁判は2016年に終結しましたが、大切な家族を失った悲しみは消えません。「怒りも悲しみも、のみ込んでいくしかない」と改めて語っています。

1面・3面など 衆院選860人出馬予定 任期満了まで3か月

衆院議員の任期満了（10月31日）まで残り3か月に迫っています。7月20日時点の本紙調査では、次期衆院選の立候補予定者は、小選挙区選（定数289人）で786人、比例選（定数176人）で小選挙区との重複立候補を除く74人で、計860人に上っています。

- ★ 自民党は調整中も含めて297人。小選挙区選では276人が立候補を目指しています。ただし、10程度の小選挙区で自民候補が競合しており、派閥間の公認争いが激化しています。
- ★ 野党共闘を巡っては、先の東京都議選で立憲民主党を上回る議席を確保した共産党が主導権を握ろうと強気の姿勢を見せていますが、候補一本化へ向けた作業はあまり進んでいないようです。

他紙と比べて

「EdTech（エドテック）」という言葉をご存じですか？ デジタル技術を利用した教材や学習支援サービスなどを指します。コロナ禍に伴うオンライン授業の普及が追い風となって、その活用が急速に広がっており、大手から新興まで企業の参入が相次いでいます。関西経済面の「NEWS潮流深層」で、現状や課題を解説しています。